



編集・発行 山見乃勢能報
日蓮宗 能勢妙見山 広報部
〒563-0132
大阪府豊能郡能勢町野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

ウソと方便

植田 観肇

「ちがう。もう宿題したもん」

遊ぶ前に宿題したらと注意したところ、子供が大きくな声で否定する。家に帰ってからランドセルを開いていないのだから、間違いなく宿題はしていないと思うのだが、そこまで強く否定されると、もしかしたら学校でしてきたのかなとも思う。しかし、たいていその後少し突っ込むと、それがウソだとすぐにばれてしまうのだ。

子育てをしていると子供のために思っているいろいろな注意することも増えてくる。そんな時、子供の反応はだいたい次の三つだ。一つはとにかく謝る、二つめは理由を付けて何とか弁解しようとする、そして三つめはウソをつく、だ。

子供も幼稚園児くらいになると口も達者になり、本人なりにがんばって弁解しようとする。だがそれなんだんと面倒くさくなるのかあきらかにすぐ分かるウソをつくときもある。たいていはすぐばれて余計に怒られるのだが。

心理学的にも、長期的なメリットより短期的なリスク回避を優先してしまうのが人間の性だというが、行き当たりばつたりのウソの先にはひどい結果しか見えてこない。

ところで「ウソも方便」などとと言う諺もあるが、ウソと方便は全く違う。「方便」とは仏教用語で、私達がよく読むお経「法華経」の「方便品」に由来する。

ちなみに方便品に書かれている内容を簡単に説明すると、法華経より前に説かれた教えは真の教えに導くための仮の教えで今から本當の教えを説くよ、今までの教えは真の教えを説くための方だったんだよ、というものだ。

「ウソ」は嫌な事から逃げるためだけの言葉で誰も幸せになれないが、仏様の説く「方便」とは人の理解度や時代の世相にあわせ、遠いゴールに向かうための一つのステップだ。

何を隠そう、法華経で明らかにされた真の教えこそがお題目の実践なのだ。私達もゴールに向かってお題目修行に励みましょう。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

當に

嫉・恚・慢

諂・誑

邪偽の心を捨てて

常に

質直の行を修すべし

『安樂行品第十四』

人と接する心がけ
ねたみ(嫉)は持つな
いかり(恚)をひっこめ
おごり・たかぶり(慢)気をつけて
こび・へつらい(諂)を止しにせよ
信用なくすがたぶらかし(誑)
邪悪ないつわり(偽)捨てないと
待っているのは迷い道
仏は常に説いている
自分の心に恥じぬよう
質素を旨に真直ぐに
日々の行い修めよと
それが正しい生きる道

【7月の主な行事】

★七夕祭 7日(土)〜8月7日(火)

★お願い事を短冊に書き入れて
妙見様に奉納します

★虫払折袴祭 22日(日)〜24日(火)

★宝刀(浪切丸)を頭に頂き、煩惱の虫を払ってもらいます。土用の頭痛封じにも。

★写経会 8日(日)11時

★星嶺演奏会 15日(日)11時

★月例祈願法要 15日(日)13時

★鷗様月例祭 22日(日)15時

【8月の行事予定】

★登山靴安全祈願&供養

11日(土)13時
12日(日)11時

★写経会

初心者の方もどうぞ！
15日(水)13時

★月例祈願法要 15日(水)13時

★妙見さまの御縁日祈願会

★星嶺演奏会 19日(日)11時

★フルート&ピアノ生演奏

★星嶺茶論 19日(日)13時

★お題目の大鼓練習です。

★五蘭盆会施餓鬼法要 22日(水)13時

★お盆のご回向をいたします。

★鷗様月例祭 22日(水)15時

※火伏守札を授与

《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト毎日運行中

亡者の救い

服部憲厚

切符がない。

新大阪発東京行き「のぞみ」に急ぎ飛び乗った私はズボンのポケットに入れたはずの切符が全然ないことに気が付いた。

思えば発車間際である。車内でも買えるお茶を、わざわざホームの自販機で買った記憶。焦って財布を取り出したとき、ぼろりと落ちたに違いない。

元はと言えば「車内販売は高い」という我が家の家訓を信じた私が悪い。数十円か安いであろう自販機のお茶に執着した結果、切符を落とすという最高のドジを踏んだのである。

到着後救いを求めて改札横の清算窓口へ向かった。落胆した客の話を親身に聞いてくれる真面目な駅員さんである。しかし、世の中そう甘くはない。

「切符の落とし物を確認してみますが、なければ再購入していただきます。」

そう告げられた私は、お茶をケチったことを心底悔いた。もう祈るしかない。

待つ間、呆然と改札口を眺めていると、そこがだんだん三途の川のように見えてくる。渡る者、渡れぬ私。幻覚である。

死者が冥途の旅路にて必ず通らねばならぬのが三途の川。善人は渡船フリーパス。その他の亡者は自力で渡るか、流されれば地獄を見る。冥途には様々な難所や関所があり、生前の行いが鍵を握る。でも唯一、追善供養だけが故人の助けとなるというではないか。

すると幻覚の中で、天から声が聞こえてきた。「お客様。新大阪駅で切符の落とし物が届いているようです。」声の主はあの駅員さんであった。

見ず知らずの奇特な方が友人がある有名なお寺で祈禱をしても良かったところ5分ほどしかお経をあげてもらえなかったと、ちょっと残念そうにしていたことがあった。

自坊にいと当たり前になつてゐるが、ご祈禱で二〇分近くお経をあげるお寺というのが実は少ないのかもしれない。

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

御利益はお経の長さ
に比例するものではないが、ご守護神の近くで長い時間祈りを捧げられるというのは、それ自体価値がある体験ではなからうか。
せわしない世の中だが神仏とゆっくり過ごす時間を大切にしていきたい。

U.K

俳壇

（みのり）

法鼓打ち山頂に待つ御来迎

梅雨天に烏羽搏き屋根修理

雨催い茅花流しの高速道

老鶯に応ふ口笛力杖

庭掃除目深にかぶる夏帽子

法華経茶話

法華経の成立(三)

大乘教団は、小乗(上座部仏教)の修行者のように僧院には籠らず、積極的に他者と関わることでお釈迦様の教えを實踐しました。二つの教団は対立し、編纂された經典も一方を批判する内容でした、小乗の修行者の中には、お釈迦様の十大弟子で、智慧第一といわれた舍利弗、多聞第一といわれた阿難などがいましたが大乘經典ではこれらの修行者を成仏の対象から除外してしまいました。般若経等がその例です。しかし法華経だけは他の大乘經典とは性格が異なります。なんと法華経では、小乗の修行者も大乘の修行者も隔てなく全ての者が成仏できると説かれています。これはお釈迦様が直に説かれた平等思想と同じ内容です。つまり法華経には、お釈迦様が一番説きたかった教えが説かれているのです。